



目次

〈特集〉「学生選書ツアー」の魅力 P.1

コラボレーションイベント P.4

NEWS 図書館からのお知らせ P.5

教員著作寄贈の紹介 P.8

「学生選書」？

「学生選書」とは、図書館にあったらいいなと思う本を、学生のみなさんに直接、店頭やWeb上で選んでいただく企画です。

2007年にはじまり、今年で5年目になります。昨年度からは、大阪大学未来基金の支援を受けてパワーアップ。

今年の参加者は15名。広い店内を買い物かご片手にショッピング。与えられた上限額まで、好きな本をチョイスできるとあって、普段にもまして熱心に本を探したというみなさん。2時間があっという間だったと、いう声が続出でした。

参加賞としてオリジナルステンレスボトルを手わたすと、満面の笑みをうかべて喜んでくださいました。

参加者に聞く

「学生選書ツアー」の魅力

図書館 最初におうかがいします。学生選書ツアーのことはどういう形でお知りになりましたか？

河口 ポスターです。高校生の時にも学校の図書館の選書をしたことがあり、大学でも同様のことができると知り参加しました。

中坊 もともと読書が趣味で、「面白い本はないか」と本屋さんをぶらぶらするのが好きなのですが、ある日附属図書館入り口付近のポスターで、学生選書ツアーが開催されることを知りました。実際に本屋さんに出かけて、自分の手で図書館に置きたい本を選ぶことができるという試みが非常におもしろそうに感じました。

上嶋 阪大図書館のホームページです。自分が読みたいと思っている本が図書館にはなくて困ることがあったので、この機会に自分の読みたい本やたくさんの人に読んでほしい本を選んで図書館に入れてもらおうと思い、応募しました。

林 図書館のHPで本の検索した時、たまたま探していた本が理工学図書館にはなく、豊中の総合図書館だけあって、取り寄せの手続きをしてもらおうと考えていると、HPの隅にこのツアー募集の案内がありました。条件を見ると、大きい本屋に行って予算分（理工学図書館は5万円）本を選ぶ、というもので、しかもお土産もある。すかさず申込みました。

図書館 どれだけの効果があるのか心配でしたが、ウェブサイトやポスターはみなさんよくご覧になっていただけているわけですね。安心しました。ほかの方は、どういう動機で参加されましたか。

野島 友人から聞いてなんですが、選書ツアーというものがあることをこれまで知りませんでした。あとステンレスボトルがもらえるというのが大きかったです。それがなければ参加していなかったかもしれません（笑）。

光成 私の場合も、参加特典がマイボトルプレゼントだったことです。5月に未来基金からもらったマイボトルがとても使いやすかったので、もう一つ欲しいと思っていたとき、たまたまKOANの掲示板で選書ツアーという企画と、参加者はマイボトルがもらえるということを知りました。もちろん、それだけではなく、私が受けている授業ではレポートを書くために文献を探す必要があり、私の探しているジャンルの本が総合図書館には少ないと感じていたこともあって、すぐに参加を決めました。

図書館 おみやげの効果は大きいですね。ところで、ツアー全体の感想はいかがでしたか？





干「これでいいのかなあ…」という不安&プレッシャーがありました。

中坊 あらかじめ下調べをしてほしい本をいくらかピックアップしていきました。しかし当日本屋さんでの本との出逢いを大切にしたいとの思いがあり、5万円分すべてピックアップはしませんでした。当日本屋さんの中をぶらぶらしながら面白そうな本にたくさん出会い、あっという間に2時間が過ぎてゆきました。

和田 私は本を読むのが好きで、特に本屋で実際に本を手に取りながら本を探すのがとても好きです。自分の興味のある本を片っ端から買い物カゴに入れられるツアーなんて、こんな幸せな機会は滅多にありません、嬉々として本を選ばせていただきました。

図書館 今回はじめて買い物スタイルを採用しましたが、やはりその方がショッピング感覚があっていいですね。

河口 実際に書店に行き、装丁等の本の見た目や雰囲気分かったうえで、選書できたことが、大変楽しかったです。

野島 本を見ていると無限に欲しくなるのですが、何とかその欲望を抑えつつ厳選していく過程が楽しかったです。

林 あれだけ大きな本屋で自由に本を選べたのでとても満足です。5万円という予算を通常の書籍で使い切るのは相当大変ということが実感できました。

図書館 ひとくちに5万円分といわれてもイメージがわかりませんよね。

和田 なかなか買うことのできない技術系の本を、たくさん選ぶことができ本当に楽しかったです。理工学図書館で、実際に手に取っていただけると幸いです。

野島 何名かの人たちと実際に書店に行って選書することで、「あの人はどんな本を選んでいるんだろう」とか色々想像するのも楽しかったです。ただ、緊張した点として、私の関心が広範囲にわたるものだったため、選ぶ本に一貫性がなかったり、必ずしも学術書に分類されるものではなかったりしたので、若

とても楽しい時間でした。

林 とにかく参加して損することは絶対にないツアーなので、次は一人でも多くの方に参加希望をして行ってきてもらいたいです。

上嶋 この企画は学生が好きに選んだ本が図書館に入るので、多くの方のオススメ本に出会える機会が増えると思います。これからも学生選書ツアーを続けてほしいです。

図書館 本を選んだ理由とか基準とかあれば聞かせてください。

河口 専門に進んだ時に自分が読みたい本を、主に選びました。薬関係の本が多いのはそういった理由からです。

和田 私の研究分野は機械と環境の融合分野なので、それに関わる幅広い技術系の本を中心に選びました。特に、原子力発電が問題となっている今、太陽光発電などの新エネルギーに関する本もいくつか読んでおきたいと思い、選んでみました。また、環境ビジネスなど、技術だけでなく経済・経営が関わってくるような本も選んでいます。もちろん、機械系ならでの、機械設計の全体が分かるような本も探しました。



図書館 大阪大学の図書館は蔵書が不十分ですよ。もっと、図書館に予算をつけてもらえたらいいんですが…。

野島 私が主に選んだ本のジャンルはファッション・宇宙・部落差別・医療関係です。

図書館 バリエティに富んでいますね。

野島 ファッションに関しては、芸術&生活の重要なイシューであるにもかかわらず、総合的に芸術関係の大学以外はどこも蔵書が少ないという事実から是非阪大に置いてほしいと前々から思っていました。



宇宙に関しては、最新の技術や「はやぶさ」についての書籍があればもっと知的好奇心が湧くのではないかと思い選書しました。

部落差別については、厳密にまじめな本というよりもビジュアル化された書籍の方がより理解が深まるという思いから選書しました。

医療関係に関しては、当然ながら生命科学図書館にかなりの蔵書があるのですが、総合図書館にもベーシックなものが欲しいと思い選書いたしました。

林 本を選ぶ基準としては、誰にでも読みやすい新しい入門書、専門性の非常に高い専門書、理工学図書館にあまりないと思われる分野の物、の3つ基準で選ばしてもらいました。本がありすぎて非常に迷いましたが、あつという間の2時間でした。

図書館 なかなか視点が鋭いですね。感心します。

光成 私は今回の選書ツアーでは、世界の国々の産業や経済、食習慣などに関する本を中心に選びました。

なぜそういったジャンルの本を選んだかと言うと、私は人文地理学に興味を持っていて、世界の国々の文化や生活習慣、国の仕組みなどを詳しく知りたいと思っていたからです。初めてその国や文化に触れる人にもできるだけ読みやすく、わかりやすい本を選んだつもりなので、みなさんも興味を持った本があればぜひ手にとって見て下さい。

図書館 みなさんの話をうかがっていて、どんな本を選ばれたのか、私も非常に興味が湧いてきました。さて、最後に、「学生選書ツアー」へのご要望をお聞かせください。

野島 書店は丸善&ジュンク堂書店（茶屋町）がいいなあと思いました。単純に大きいので。ただ、あそこは広すぎて収拾がつかないかもしれませんよね… あと、一人当たりの予算が5万円前後というのは少ないかなと思いました。

林 理系の専門書に限らないかもしれないですが、一冊数万円の本が存在するのも事実なので、そのような本の購入に対するアプローチも考えてほしいです。

野島 「学生選書」なので、学生ならではの発想による、学術書以外にも自由な選び方ができればなお良いと思いました。あまり「学術書」や「みんなに役立つ」等の規制をかけないでほしいです。そのような規制をかけなくても、みな最低限の「公共性」は理解していると思うので。

光成 大学の図書館の目的から考えれば学生が研究に用いる本ばかりになってしまうのは当然だとは思いますが、最近の時事ニュースや人気の文学作品、楽しく読める雑学本といった、今まで図書館をあまり利用していなかった人にも興味を持てる内容の本が阪大の図書館に置かれるようになれば、より嬉しいと思いました。

林 多くの人にとって魅力的な条件のツアーだと思うので、もっと大々的に告知を行って欲しいです。図書館のイベントなので、図書館の入り口に大きなポスターを張るだけでも人数はかなり増えると思います。

あと、せっかく参加者が集まり、本を選んだので、場所的な問題はあるとは思いますが、自分の専門と、なぜその本を選んだのかを簡単に発表する、などといったことをして、ほかの参加者と意見を言い合う時間があると面白くてためになり、いいなと思いました。

図書館 最後のご意見は、とても参考になりました。それでは、みなさん、本が図書館に並び日を楽しみにしててください。本日は、どうもありがとうございました。

ご協力いただいた、光成夏未さん(文1)、上嶋佑典さん(法2)、野島那津子さん(人D1)、河口恵さん(薬1)、中坊勇太さん(経3)、林健さん(工M1)、和田春菜さん(工M2)には心から感謝の意を表します。



大阪大学未来基金は 阪大生を応援します!!

大阪大学未来基金は、皆様からいただいたご寄付を基金として運用し、阪大の教育研究環境の充実のために還元していくもので、設立から2年が経過し、多くの卒業生の皆様などからご支援をいただいております。

また基金を活用して、様々な事業へのサポートも進めており、「学生選書」「マイボトル・キャンペーン」の推進、奨学金の支給、課外研究や海外研修のサポート、クラブ活動の支援など幅広く阪大生の学生生活をバックアップしています。

多くの学生の皆さんが「阪大に入って良かった」「キャンパスライフは充実している」と思っていたけるよう、これからもサポートの輪を広げ活動を進めていきます。

詳しくは未来基金のホームページをご参照ください。

<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/>



理工学図書館前のあの美しいピロティにこたつを置いて、English Cafeをしてみたい！という「むちゃぶり」を、図書館スタッフの皆様が（とても広い心で）許可してくださり、本イベントは実現しました。

準備の際、最大の懸念事項は「どのように電源を確保するか」でした。数台のこたつを一度につけても図書館の建物が停電にならないよう、スタッフ同士頭を突き合わせて計算しました。その他にも色々と準備が大変でしたが、お陰さまで当日は35人と秋学期最も多い参加人数となりました。



当日はピロティ前の池の水が完全に凍るぐらい寒かったのですが、留学生も日本人学生も一緒にこたつに入って、肩を寄せあいながら「福笑い」をしたり、写真を撮ったりと楽しそうな姿が印象的でした。

今回ご協力をいただいた学生団体・Scienthroughの飯島君、原君、そして何より理工学図書館の皆様がこの場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。



工学研究科
助教 出口朋美

English Café, Suita (2011.1.20)

コラボレーション・イベント

<工学英語II> ポスタープレゼンテーション

工学研究科の大学院の「工学英語II」は、学術論文の組み立てや英語表現を学ぶ科目である。学習成果については、最終プレゼンテーションとして、口頭及びポスターで学生自身の研究内容を発表した。

平成22年度の授業では、理工学図書館の研修室及びギャラリーゾーンをお借りし、公開授業として行われた。

特にポスタープレゼンテーションは、ギャラリーゾーンという一般の学生が通行するスペースで行われたので、履修者以外の学生も容易に大学院生の研究に関心を示したり、演者に英語で質問をしたりするという効果が表れた。

工学研究科
准教授 藤田清士



又、発表する大学院生は、国際会議のポスター会場の雰囲気を感じながら図書館で体験することができた。

このように、授業を図書館のコモンスペースで行う新しい取り組みは、教員と学生の相互コミュニケーションを高める実践的な

“教育実験”である。

平成23年度の「工学英語II」も理工学図書館を利用させていただく予定である。

1冊の本を紹介したい。2月に恩師の武藤洋二先生（大阪外国語大学名誉教授）が上梓された『天職の運命』（みすず書房）である。前著『詩の運命』（新樹社）の出版から22年。渾身の大作である。

本書では、数多の芸術家の生きざまが天職への身構えを軸に描きだされている。生身の人間の生は時代から引き剥がすことができないが、それが高潔なものになるか卑劣なものになるかは球の上でバランスをとる《運命の女神》次第である。

演劇界の実験家たらんという信念を貫き、人民の敵として逮捕・銃殺されたメイエルホリド、恐怖とテロリズムが支配する時代に被害者にも加害者にもならない道を選択したオレーシャ、国家権力の悪魔が支配する修羅場を文学の中で見下ろす自由を命がけて守ったアンドレーエフ……著者が指し示すこうした「スターリンの夜」に綺羅星のごとく輝く優れた生きざまは、背後の闇に埋もれた無数の凡俗な生きざまと対比されて引き立てられる。

生きる勇気を与えてくれる書に出会うことは実に稀である。この本を一人でも多くの人に読んでもらいたいと思う。



図書館企画課 企画係

赤井 規晃

NEWS☆図書館からのお知らせ

附属図書館ウェブサイト新装開店

◆附属図書館ウェブサイトが装いも新たにリニューアルオープンしました。◆研究と教育のインターフェースを目指して、電子リソースの情報を集約、「資料の探し方ガイド」や「FAQ」など新たなコンテンツを追加、各館のサイトもデザインが統一され、より見やすくなりました。◆今後もさらに使いやすいサイトを目指して努力していきますので、よろしくをお願いします。



総合図書館は授業期8時開館、外国学図書館は休業期土・日開館を実施

◆総合図書館では、みなさんのご要望にお応えして、4月11日から授業期間中の開館時間を8時に繰り上げました。これにより1時間開始前に図書館が利用可能になりました。◆実際に利用している方にうかがってみると、「便利です。例えば朝6時に起きて、9時開館だと朝の時間が無駄になりますからね」「前の大学では9時開館だったのでご助かります。夜の10時までの開館もずっと続けてほしいです。」と好評です。◆他方外国学図書館は、これまで授業休業期間の土・日曜日を休館としていましたが、今年度からは開館日となります。開館時間は10～17時。こちらませひご利用ください。

大好評！ 「レポートの書き方講座」（6/13, 6/20, 6/27）

◆一年次生を主な対象とした「レポートの書き方講座」を大学教育実践センターの堀一成准教授を講師に、昨年度に引き続き、総合図書館ラーニング・commonsで開催しました。参加者は昨年度を上回る延べ59名。◆ワードの基礎操作やレポートの体裁の説明や、レポートの構成作りの説明、600字程度の小レポートの作成実習を行いました。ワードの操作、レポートの構成作り、考え方の整理方法などを中心に多くの質問も出され、充実したものとなりました。



eBook が充実!

◆Routledge Library Editions : Japanが eBookコンテンツに新登場。1890年～2005年にかけて刊行された日本関係の名著81タイトルのデジタル復刻です。

◆Springer ebookにも新たな分野コレクションを追加しました。今回は、Humanities, Social Science & Lawコレクション288タイトルです。



新入生オリエンテーション

◆総合図書館では新入生向けオリエンテーション『20分でわかる図書館利用の基礎』&『ライブラリーツアー』(4/7～4/13)を開催しました。参加者はあわせて856名。大学教育実践センターの「ワニ博士」の応援もあって、例年にない盛り上がりを見せました。◆また、理工学図書館では、TAによる図書館ツアー(4/14～4/22)やガイダンス(5/9～5/13)、外国学図書館でも、新入生対象のツアー(4/14)を実施しています。◆これからも、少しでも図書館を身近に感じていただけるような企画を実施していきますので、ふるってご参加ください。

Welcome to our Libraries!

◆留学生を対象にしたオリエンテーションを総合図書館(4/7、59名参加)、外国学図書館(4/21、29名参加)で開催しました。◆年々キャンパスが国際化している中、図書館職員もがんばって、英語でガイダンスをやっていますので、よろしくお願いします。

ガイダンス「雑誌論文の探し方、ご存じですか？」(5/26, 6/16)

◆外国語学図書館では「雑誌論文の探し方、ご存じですか？」を開催しました。24名の参加があり、「論文の探し方や、検索のテクニックなど、基礎的なことから教えて下さってよくわかりました」「読みたい論文が載っている雑誌をどう探せばよいか、どう取寄せればよいかがとてもよくわかったので良かったです」といった感想が寄せられました。

初心者向け講習会「論文を入手しよう！」を開催(6/21～6/22)

◆総合図書館では、本だけではなく、一歩進んで学術論文を収集する技術を身に付けていただく、レポート・論文作成に役立てたい学部生向けの講習会をラーニング・コモンズで開催しました。◆ラーニング・コモンズでは初めての図書館職員による講習会でしたが、「一歩進んだ学術論文の講習」というところで関心を持っていただけたようで、学部生中心に23名の参加がありました。◆今後もラーニング・コモンズで講習会などを開催していきますので、ぜひご参加ください。

情報活用基礎

◆全学共通教育科目「情報活用基礎」の1コマを使い、今年度も図書館職員が「図書館活用法」の講義を行いました。◆学生のみならず、これを機会に図書館の資料を積極的に学習に活用してほしいものです。

忍頂寺文庫目録の刊行

◆平成22年度附属図書館研究開発室事業として文学研究科飯倉洋一教授によって編纂が進められていた『大阪大学附属図書館所蔵忍頂寺文庫目録』が3月に刊行されました。◆なお、OUKAでは目録の全文を公開しています。

シラバス指定図書コーナー誕生&ラーニング・コモンズ増席[総図]

◆総合図書館のラーニング・コモンズに閲覧用テーブル3台、椅子16脚を増設しました。



◆また、隣接した参考図書コーナー横には、新たに「シラバス指定図書コーナー」を設置。豊中キャンパス所在の学部・研究科の授業および全学共通科目の教科書・参考書を提供しています。



展示企画が盛りだくさん

◆附属図書館では、さまざまな図書の企画展示を行っています。◆総合図書館に設けられた「特設コーナー」では、「英語の図書を読んでみよう」（5～6月）「2007～の学生選書で選ばれた本（大震災を機に社会について考える）」（5～6月）「はじめてのレポート」（6～7月）とバラエティに富んだテーマ。◆理工学図書館では「日常の科学・技術・文化——こんな「役に立つ」本もあります」（2/17-5/15）「ひと味違う語学」（5/16-）など、工学系の学生をターゲットにした企画。◆外国学図書館では、毎月＜14冊の本＞と題し、「新書の中から」（4月）「教養と地域研究を考える」（5月）「ラテンアメリカ文学に満たされて」（6月）などユニークな視点から厳選された図書の紹介をしています。



充実のデータベース講習会

◆6月はデータベース講習会強化月間として、Reaxys、Web of Science、Scopus、MLA、Research Libraryの講習会を連続開催しました。◆いずれの講習会も、毎回会場は満員で、参加者からは、「適当に触りながら使うだけでは気づかなかった機能を知ることができた」「幅広い検索方法がわかってとても有益」「有用なテクニック集の冊子がよかった」といった声が寄せられました。

いちよう祭展示（5/2～3）

◆総合図書館も「いちよう祭」に参加し、施設開放とともに展示会「蔵書印に見る大阪大学の足跡」を開催しました。◆附属図書館の蔵書から、大阪医学校や大阪高等工業学校など、大阪大学の源流となる各学校の蔵書印が押された図書を18点選び、大学の沿革を説明したパネルとともに展示しました。◆卒業生と思われる方も多く訪れた「いちよう祭」。興味深げにショーケースを覗く姿が見られました。

東日本大震災への対応

◆附属図書館では、東北地方太平洋沖地震で被害にあった大学に所属する方々のために特別利用証を発行するサービスを実施しました。5月31日までの期間に30名が申請をされました。

研修会「図書館職員のための漢籍の第一歩」（3/24）

◆近畿地区国公立大学図書館職員を対象に総合図書館で漢籍の基礎を学ぶ研修が開催されました。◆学内の職員29名をふくめ58名の参加がありました。◆堤一昭准教授（文学研究科）による講演「漢籍をめぐる基礎知識」のあと、本学の蔵書である「懐徳堂文庫」「石濱文庫」を取り上げた講演が本学職員により行われました。◆漢籍の基礎知識を習得できる有益な研修会となりました。



大学図書館近畿イニシアティブ中級研修開催（6/23～6/24）

◆大学図書館近畿イニシアティブ中級研修が附属図書館で開催され、近畿一円の大学図書館職員41名が参加しました。◆広告制作ディレクターを講師にむかえ、ブランディングについてワークショップ形式で学ぶという、珍しい趣向の研修会ということもあり、いつも以上に熱心に取り組む参加者の姿が印象的でした。



図書館キャンペーン実施中！

◆総合図書館では、利用者みなさんにマナー向上の啓発キャンペーンを実施しています。誰もが気持ちよく使える図書館を目指して、ご協力をお願いします。
＜資料は「みんなのもの＞（2・3月）
＜図書館へようこそ＞（4・5月）
＜総合図書館の開館時間・貸出冊数＞（6月）
＜返却期限を守りましょう＞（7・8月）



<http://ir.library.osaka-u.ac.jp>

コンニチハ～!!

附属図書館
電子コンテンツです

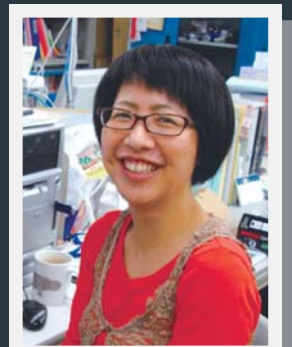
本学では、機関リポジトリ「OUKA（桜華）」を設置し、学内の学術研究成果をインターネット上で広く一般に公開するサービスを行っています。

現在附属図書館では、博士学位論文、紀要論文、学術雑誌掲載論文などを中心に、様々な成果物を学内から頂戴し、登録しています。

OUKAに論文を載せたい！
そう思った今、電子コンテンツまでご連絡ください♪
お待ちしております☆

どしどし登録ください♪

ouka@library.osaka-u.ac.jp



学術情報整備室

学術情報組織化班

佐々木 礼奈



編集後記

◆この夏、日本全国で電力不足が見込まれるということで、大阪大学でも節電対策を講じることになりました。◆図書館でも、照明をおとしたり、パソコンの画面の輝度を下げたり、トイレのジェットタオルを使用停止にしたりとささやかではありますが、協力をしています。◆学生のみならず、1つ上の階ならエレベータではなく階段を使うなど、ちょっと我慢してもらえないでしょうか。◆今も復興のために不自由を強いられている被災地の方のために。◆ご協力をお願いします。(編)

教員著作寄贈の紹介

(2011年1月1日～2011年6月30日 受領分)

加賀有津子 教授、小浦久子 准教授、澤木昌典 教授、柴田祐 助教、福田知弘 准教授、若本和仁 准教授(以上、工)

・JUDI関西 仕事の軌跡と展望

渡邊肇(工)

・脱皮と変態の生物学

澤木昌典、矢吹信喜、福田知弘、池道彦、下田吉之、惣田訓、松村暢彦、柴田祐(以上、工)、青野正二(人)

・はじめての環境デザイン学

高木信二(経)

・Managing capital flows
・Emerging Asian regionalism
・Inclusive, balanced, sustained growth in the Asia Pacific

田野村忠温(文)

・アプリケーションソフトの基礎
・コンピュータ利用の基礎知識
・ウェブによる情報収集

白井光雲(産研)

・現代の熱力学

玉井誠一郎(産研)

・知財戦略経営概論

那須正夫(薬)

・セルフメディケーションのためのくすりの話
・食品衛生学:「食の安全」の科学
・環境衛生の科学

矢吹信喜(工)

・工業情報学の基礎
・Collaborative Design in Virtual Environments

渋谷陽二(工)

・塑性の物理

小倉明彦、富永恵子(生)

・記憶の細胞生物学

中村安秀(人)

・Maternal & Child Health (MCH) Handbook World Report 2010
・報告書 ジェンダー共生ワークショップ
・緊急人道支援海外調査報告
・最終報告書 人道支援に対する地域研究からの国際協力と評価
・国境を越えてつながる、こころのケア
・国際保健分野の人材育成のあり方に関する研究 2010年度(平成22年)総括・分担研究報告書
・母子健康手帳の活用に関する調査研究

八木厚志(情)

・可解性の理論
・解の挙動と自己組織化

澤井実(経)

・産業技術政策:1980-2000

嶋本隆光(日日セ)

・イスラーム革命の精神

稲葉章(理)

・アトキンス基礎物理化学

谷口勢津夫(高司)

・税法基本講義 第2版

山下仁(言文)

・言語意識と社会:ドイツの視点・日本の視点

阿曾洋子(医)

・基礎看護技術 第7版

長澤裕(基)

・検証陰謀論はどこまで真実か:パーセントで判定

大谷順子(人)

・人間科学のための混合研究方法:質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン

河村悟(生)

・視覚の光生物学

木下修一(生)

・生物ナノフォトニクス:構造色入門

藤目ゆき(人)

・ベトナム女性史:フランス植民地時代からベトナム戦争まで

塩田勝彦(世言)

・ハウサ語基礎文法

堤研二(文)

・人口減少・高齢化と生活環境:山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ

尾浦憲治郎(名誉教授)

・ACSI-4: proceedings of the Fourth International Symposium on Atomically Controlled Surfaces and Interfaces, Tokyo, Japan, October 27-30, 1997 North-Holland 1998

※敬称略